

雨にも
ケロッと!

野菜等の病害防除には

ベンレート[®]

殺菌剤
水和剤



®は住友化学(株)の登録商標です。

いろいろな野菜につかえる。
いろいろな病害でつかえる。



甘藷



メロン



アスパラガス



レタス



馬鈴薯



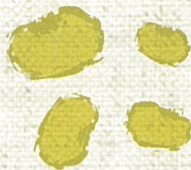
トマト



玉葱



キャベツ



豆類(種実)



茄子



胡瓜



白菜



豆類(未成熟)



葱



西瓜



苺



作物名	適用病害名	希釈倍数または使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
きゅうり	菌核病 灰色かび病 炭疽病 黒星病 つる枯病	2000~3000倍	100~300ℓ /10a	収穫前日まで	3回以内	散布
	つる割病					
うり類(漬物用)	炭疽病	1000倍	150~300㎖ /株	定植前~定植1ヶ月後 定植前~収穫45日前まで	2回以内	灌注
すいか	つる枯病 炭疽病 菌核病	2000~3000倍	100~300ℓ /10a	収穫前日まで	5回以内	散布
	メロン					
トマト	萎凋病	1000倍	150~300㎖/株	定植前~定植1ヶ月後	2回以内	灌注
	菌核病	2000倍	100~300ℓ /10a	収穫前日まで	3回以内	散布
ミニトマト	葉かび病 灰色かび病	2000~3000倍	100~300ℓ /10a	収穫前日まで	3回以内	散布
なす	半身萎凋病	500倍	200~300㎖/株	定植後~	3回以内	土壌灌注
	1000倍	400~600㎖/株	収穫14日前まで			
甘長とうがらし	黒枯病 灰色かび病	2000~3000倍	100~300ℓ /10a	収穫前日まで	1回	散布
	菌核病					
いちご	炭疽病	500倍	50~100㎖/株	仮植前	1回	10~30分間 苗根部浸漬
	萎黄病			本圃定植後 但し、収穫30日前まで	3回以内	1回
なたね	炭疽病 萎黄病	1000倍	100㎖/株	本圃定植後 但し、収穫30日前まで	1回	灌注
	菌核病			1000~2000倍	2000倍	100~300ℓ /10a
キャベツ	菌核病	2000倍	100~300ℓ /10a	収穫7日前まで	2回以内	散布
はくさい	白斑病 菌核病	2000~3000倍	3ℓ/m ²	収穫21日前まで	2回以内	灌注
ほうれんそう	萎凋病	2000倍	3ℓ/m ²	収穫21日前まで	4回以内	散布
レタス	菌核病 灰色かび病 すそ枯病	2000~3000倍	3ℓ/m ²	収穫14日前まで	4回以内	散布
	収穫前日まで			1回	散布	
アスパラガス	茎枯病 株腐病	2000倍	100~300ℓ /10a	収穫21日前まで	1回	散布
非結球あぶらな科 葉菜類 (みずな、 チンゲンサイを除く) みずな チンゲンサイ	炭疽病 白斑病	4000倍	100~300ℓ /10a	収穫14日前まで 収穫7日前まで	2回以内	灌注
パセリ	立枯病	1000倍	3ℓ/m ²	収穫45日前まで	2回以内	灌注
みつば	菌核病	種子重量の0.5%	—	は種前	1回	種子粉衣
しそ(花穂)	炭疽病	500倍	—	収穫21日前まで	2回以内	散布
ひき	葉枯病	—	—	収穫7日前まで	2回以内	散布
みょうが(花穂)	炭疽病	2000倍	100~300ℓ /10a	収穫3日前まで	3回以内	散布、但し花穂の 発生期にはマルチ フィルム被覆により 散布液が直接花穂 に飛散しない 状態で使用する
	いもち病			みょうが(花穂)の 収穫3日前まで 但し、花穂を収穫しない 場合にあっては 開花期終了まで	1回	散布
みょうが(莖葉)	炭疽病	—	—	収穫14日前まで	2回以内	灌注
つるむらさき	紫斑病	500倍	—	植付前	30分間種球浸漬 5分間苗根部浸漬 30分間苗基部浸漬	—
わけぎ	萎凋病	100~200倍	—	定植直前	—	—
ねぎ	小菌核腐敗病	500倍	セル成型育苗 トレイ1箱または ペーパーポット用 (30×60cm.) 使用土壌約5ℓ 当り500㎖	定植前	1回	灌注
	小菌核腐敗病			1000~2000倍	100~300ℓ /10a	収穫30日前まで

作物名	適用病害名	希釈倍数または使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
たまねぎ	灰色腐敗病 灰色かび病	2000~3000倍 2000倍	100~300ℓ /10a	収穫前日まで	6回以内	散布
	乾腐病	50倍	セル成型育苗 トレイ1箱または ペーパーポット用 (30×60cm.) 使用土壌約5ℓ 当り500㎖~1ℓ	定植前	1回	灌注
らっきょう	いもち病	1000倍	100~300ℓ /10a	収穫21日前まで	2回以内	散布
	芽枯症			収穫28日前まで	1回	30分間種球浸漬
しょうが	菌核病	500倍	—	種球冷蔵保存前	1回	30分間種球浸漬
たらのぎ	黒色根腐病	160倍	—	植付前	—	30分間種球浸漬
うど	灰色かび病	1000倍	100~300ℓ /10a	収穫14日前まで	8回以内	散布
せんきゅう	黒根病	1000倍	3ℓ/m ²	—	—	灌注
しゃくやく(食用)	黒根病	2000倍	100~300ℓ /10a	収穫30日前まで	3回以内	散布
セネガ	黒根病	1000倍	3ℓ/m ²	発芽14日後まで	2回以内	灌注
豆類 (未成熟、ただし、 えだまめ、 さやいんげん、 にやみんどうを除く)	菌核病	1000~2000倍	100~300ℓ /10a	収穫14日前まで	4回以内	散布
えだまめ	立枯病	1000倍	3ℓ/m ²	発芽14日後まで	2回以内	灌注
	菌核病	2000倍	100~300ℓ /10a	収穫30日前まで	3回以内	散布
さいいんげん	立枯病	1000倍	3ℓ/m ²	発芽14日後まで	2回以内	灌注
	菌核病	2000倍	100~300ℓ /10a	収穫14日前まで	2回以内	散布
さやえんどう	立枯病	1000倍	3ℓ/m ²	発芽14日後まで	2回以内	灌注
	立枯病	1000倍	3ℓ/m ²	発芽14日後まで	2回以内	灌注
豆類 (種実、ただし、 だいず、 いんげんまめ、 えんどうまめ、 らっかせいを除く)	菌核病	1000~2000倍	100~300ℓ /10a	収穫14日前まで	4回以内	散布
	菌核病 紫斑病	1000~2000倍	1000~1500倍	収穫7日前まで	—	—
だいず	黒根腐病	乾燥種子重量の0.5%	—	は種前	1回	種子粉衣
いんげんまめ	菌核病 角斑病	1000~2000倍	100~300ℓ /10a	収穫14日前まで	4回以内	散布
えんどうまめ	菌核病 褐斑病	1000~2000倍	100~300ℓ /10a	収穫7日前まで	—	—
	黒炭病	2000~3000倍	—	収穫7日前まで	—	—
らっかせい	そうが病	2000倍	—	—	—	—
	つる割病 黒斑病	500~1000倍	—	植付前	—	—
かんしょ	つる割病	500~1000倍	20~40㎖/株	挿苗時	—	20~30分間 苗基部浸漬
	黒斑病	種いも重の0.4%	—	—	—	種いも粉衣
ばれいしょ	黒あざ病	種いも重の0.3~0.4%	—	—	—	—
	乾腐病	種いも重の0.5%	—	—	—	—
さといも(東種)	乾腐病	50~100倍	—	—	—	—
ごんやん	乾腐病	50~100倍	—	—	—	—
豆類(種実) とうもろこし 野菜類	フザリウム菌 による病害	乾燥種子重量の 0.16%	—	は種前	—	種いもの 芽基部に散布 種子処理機 による 種子粉衣

適用場所	作物名	適用病害名	使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
温室、ガラス室、 ビニールハウス等の 密閉できる場所	きゅうり トマト	灰色かび病	150g/10a	5ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内 5回以内	常温煙霧

※散布、灌注と合わせての総使用回数です。
●ベニミルを含む農薬の総使用回数は、ラベルでご確認ください。●野菜以外の水稲・果樹・花等にも登録があります。

- 使用上の注意事項(抜粋)**
- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
 - きゅうり、トマトに対して灌注処理する場合は、誤って高濃度で処理すると、退色や生育抑制等の薬害を生じることがあるので、所定濃度を守ってください。
 - なすの半身萎凋病に対して灌注処理する場合は、定植前及び定植時処理では薬の質化、生育抑制等の薬害を生ずるおそれがあるので定植後に処理してください。
 - たまねぎ、いちごに対して苗根部浸漬処理する場合は、誤って高濃度で処理すると、いちごでは活着不良、たまねぎでは、初期生育遅延等の薬害のおそれがあるので、使用方法を厳守してください。
 - いちごの萎黄病防止に使用する場合は、特に多発地では植付前の土壌くん蒸と本剤処理とを組み合わせたほうが有効です。
 - ごんやんの乾腐病防止に使用する場合は、種手の芽基部を上に向けて並べ、散布液が芽基部に充分かかるように1m²当たり100㎖散布してください。
 - ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は、下記の注意事項を守ってください。
 - ①煙霧用として使用する場合は専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧してください。特に常温煙霧装置の設定及び使用にあたってはできるだけ病害虫防除等関係機関の指導を受けるようにしてください。
 - ②作業はできるだけ夕刻に行い、作業終了後6時間以上密閉してください。
 - ③常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。
 - 本剤及び同系統の薬剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣った例があるので過度の連用を避け、なるべく作用性の異なる薬剤を組み合わせて使用してください。
 - 本剤はエトフゾック乳剤またはタイアジソン乳剤と混用した場合、凝固物を生成するため混用を避けてください。
 - 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、できるだけ普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
 - 眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意し、眼に入った場合には直ちに水洗してください。
 - 皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
 - 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長スボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
 - 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
 - かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
 - 常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。
 - 街道、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄目や立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
 - 本剤で処理した種子等は食料や動物飼料として用いないでください。
 - 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。施設内に水産動植物を飼っている水槽等を置かないでください。
 - 使用済みの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また空袋は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
 - 直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋は園場等に放置せず適切に処理してください。

大地のめぐみ、まっすぐへ
SCC GROUP

住友化学

住友化学株式会社
お客様相談室 0570-058-669
農業支援サイト i-農力 <http://www.i-nouryoku.com>